

文化財の国指定等について

平成28年3月11日（金）に開催された国の文化審議会において、「木造不動明王坐像（天野社護摩所旧本尊）」（珠洲市）を重要文化財に指定、「奥野家住宅主屋・土蔵・門」（河北郡津幡町）を登録有形文化財（建造物）に登録するよう、文部科学大臣に答申がなされた。

1 重要文化財（美術工芸品）

- (1) 名称：もくぞうふどうみょうおうざぞう あまのしゃごましよきゆうほんぞん木造不動明王坐像（天野社護摩所旧本尊）
- (2) 所在地：珠洲市宝立町春日野（宗教法人法住寺）
- (3) 特徴：明治初年まで高野山の麓にあるあまのしゃごましよほんぞん天野社の護摩所の本尊として伝来した不動明王像で、14世紀初め頃の作と見られる。歯に水晶を嵌める技法に特色がある。

2 登録有形文化財（建造物）

- (1) 名称：おくのけじゅうたくしゅおく どぞう もん奥野家住宅主屋・土蔵・門
- (2) 所在地：河北郡津幡町字川尻
- (3) 特徴：河北潟に近い川尻地区の中央に位置する豪農地主の旧家。北陸の典型的な農家建築で、太い貫を多用した工法が取られており、内外とも地域的な特色を見せる。

もくぞうふどうみょうおうざぞう あまのしやごましよきゆうほんぞん
木造不動明王坐像 (天野社護摩所旧本尊)

所在地 珠洲市宝立町春日野 83-15

所有者 宗教法人 ほうじゅうじ 法住寺

員数 1 軀

大きさ 像高 86.2 cm

特徴 明治初年まで高野山の麓にあるあまのしや天野社（にうつひめじんじや丹生都比売神社）のごましよ護摩所
ほんぞん本尊として伝来したふどうみょうおうざぞう不動明王像で、14世紀初め頃の作と見られる。
当時、とうじさいいん靈験仏として知られた京都東寺西院の国宝不動明王像（9世紀）
の模像で、歯に水晶を嵌める技法に特色がある。鎌倉時代における靈
験仏信仰との結びつきによりこの種の技法が用いられた例として注
目される。



おくのけじゅうたくしゅおく どぞう もん
奥野家住宅主屋・土蔵・門

所在地・建築面積 (主屋) 津幡町字川尻タ九一 296 m²
(土蔵) 津幡町字川尻タ九一 93 m²
(門) 津幡町字川尻タ九一 間口 2.7m

建築年代 (主屋) 明治 19 年 (大正 12 年移築)
(土蔵) 明治中期 (大正 12 年移築)
(門) 大正 12 年頃

特 徴

奥野家住宅は河北潟にほど近い川尻地区の中央に位置する。家主は戦時中には村長も務めたことのある豪農地主の旧家である。

現在の主屋は大正 12 年に現在の南砺市から移築してきた事がわかっており、残された棟札から明治 19 年に建築されたこともわかっている。

主屋は木造 2 階建て檜瓦葺で、アズマダチと呼ばれる妻面を大きく見せる北陸の典型的な農家建築で、内部はワクノウチと呼ばれる太い貫を多用した工法が採られており、内外とも地域的な特色を見せる。

土蔵は道具蔵と米蔵の 2 棟が現存しているが覆屋で覆われており外観からは 1 棟に見える。道具蔵は主屋を移築してくる以前からのもので、史料から明治 25 年には現在の場所にあったことがわかっている。米蔵は大正 12 年の主屋移築の際に同時に移築したと考えられる。

門は主屋式台の正面に建っており、薬医門形式である。間口は 2.7m と広くとり屋根は檜瓦葺の堂々とした風格の門である。

津幡町 奥野家住宅



奥野家住宅主屋・門外観



奥野家住宅土蔵外観